

目次

第1章 本支店会計..... 1	4. 商的工業簿記における各原価勘定の意味 と勘定間との関係 80
第1節 本支店会計..... 1	5. 商的工業簿記の場合の損益計算書と商業 簿記の場合の損益計算書 81
1. 意義..... 1	第2節 製造原価の3要素と費目別消費額の計 算 82
2. 種類..... 1	1. 材料費 82
3. 簿記一巡の手続..... 2	2. 労務費 87
第2節 本支店間取引..... 2	3. 経費 93
1. 支店勘定と本店勘定の設定..... 2	第3節 完成品原価（製品原価）の計算 99
2. 本支店間取引の分類..... 3	1. 計算式 99
第3節 支店間取引..... 13	2. 勘定記入 99
1. 記帳方法..... 13	第4節 売上原価の計算 105
2. 支店分散計算制度..... 13	1. 計算式 105
3. 本店集中計算制度..... 13	2. 勘定記入 105
4. 両計算制度の長所・短所..... 14	第5節 商的工業簿記の勘定連絡及び製造勘定 と財務諸表との関係 108
第4節 未達取引..... 17	1. 商的工業簿記の勘定連絡（典型的なケー ス） 108
1. 意義..... 17	2. 商的工業簿記の製造勘定と財務諸表との 関係 109
2. 分類..... 17	第6節 期末仕掛品原価の計算方法（期末仕掛 品の評価方法） 112
3. 記帳方法..... 17	1. 完成度換算法 112
4. 具体的会計処理..... 18	2. 売価還元法 121
第5節 本支店の決算仕訳..... 23	第7節 期末製品原価の計算方法（期末製品の 評価方法） 125
1. 未達取引の整理仕訳..... 23	第8節 作業屑 125
2. 通常の決算整理仕訳..... 24	1. 意義 125
3. 損益振替仕訳..... 25	2. 会計処理 125
4. 支店純損益の振替仕訳..... 29	第9節 副産物 128
第6節 本支店の合併手続..... 42	1. 意義 128
1. 意義..... 42	2. 会計処理 128
2. 本支店合併手続と未達取引の処理..... 43	
3. 合併手続の方法..... 44	
4. 合併手続の内容..... 45	
第2章 商的工業簿記..... 79	
第1節 工業簿記..... 79	
1. 意義..... 79	
2. 種類..... 79	
3. 商的工業簿記の簿記一巡の手続..... 80	

第10節 減損.....	132	3. 精算表上での内部利益の控除方法...	166
1. 意義.....	132	解答用紙集	
2. 種類と発生の仕方.....	132	point up lesson 1.....	172
3. 減損の会計処理.....	132	point up lesson 2.....	174
4. 正常減損費の負担関係と期末仕掛品原価 の算定.....	133	point up lesson 3.....	175
5. 異常減損の勘定記入と製造原価報告書に おける記載.....	134	point up lesson 4.....	185
第11節 仕損.....	139	point up lesson 5.....	186
1. 意義.....	139	point up lesson 6.....	187
2. 種類と発生の仕方.....	139	point up lesson 7.....	188
3. 仕損の会計処理.....	139	point up lesson 8.....	189
第12節 精算表.....	141	point up lesson 9.....	190
第3章 本社工場会計.....	146	point up lesson 10.....	191
第1節 本社工場会計.....	146	point up lesson 11.....	192
1. 意義.....	146	point up lesson 12.....	193
2. 簿記一巡の手続.....	146	point up lesson 13.....	195
第2節 本社工場間取引.....	147	point up lesson 14.....	196
1. 工場勘定と本社勘定の設定.....	147	point up lesson 15.....	197
2. 本社工場間取引の分類.....	147	point up lesson 16.....	198
第3節 未達取引.....	150	point up lesson 17.....	198
1. 意義.....	150	point up lesson 18.....	198
2. 分類.....	150	point up lesson 19.....	198
3. 記帳方法.....	150	point up lesson 20.....	198
4. 具体的会計処理.....	151	point up lesson 21.....	199
第4節 本社・工場の決算仕訳.....	154	point up lesson 22.....	199
第5節 本社・工場の合併手続.....	159	point up lesson 23.....	200
1. 意義.....	159	point up lesson 24.....	200
2. 本社・工場合併手続と未達取引の処理.....	160	point up lesson 25.....	200
3. 合併手続の方法.....	161	point up lesson 26.....	201
4. 合併手続の内容.....	161	point up lesson 27.....	202
第6節 内部利益の種類、計算方法、及び精算 表上での控除方法.....	165	point up lesson 28.....	203
1. 内部利益の種類（典型的なもの）.....	165	point up lesson 29.....	204
2. 内部利益の計算方法.....	165	point up lesson 30.....	205
		point up lesson 31.....	208
		point up lesson 32.....	210

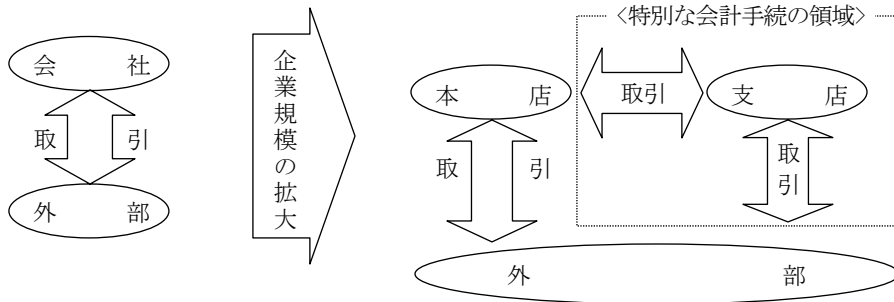
第 1 章 本支店会計

第 1 節 本支店会計

1. 意義

会社は規模の拡大に伴い、本店の他に支店を開設することがある。この場合、「支店の取引」についてどのように記帳し、会社の業績をどのように表現したらいいかが問題となる。このような問題を解決するための特別な会計手続の領域を本支店会計という。

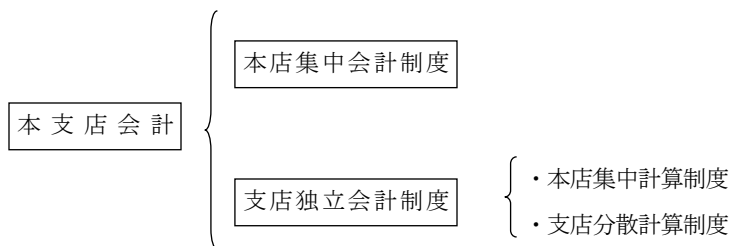
〈理解図〉



2. 種類

本支店会計は、支店を独立した会計単位として扱うかどうかにより、本店集中会計制度と支店独立会計制度に分けられ、支店を独立した会計単位として扱う場合でも支店間取引の記帳方法として本店集中計算制度と支店分散計算制度がある。

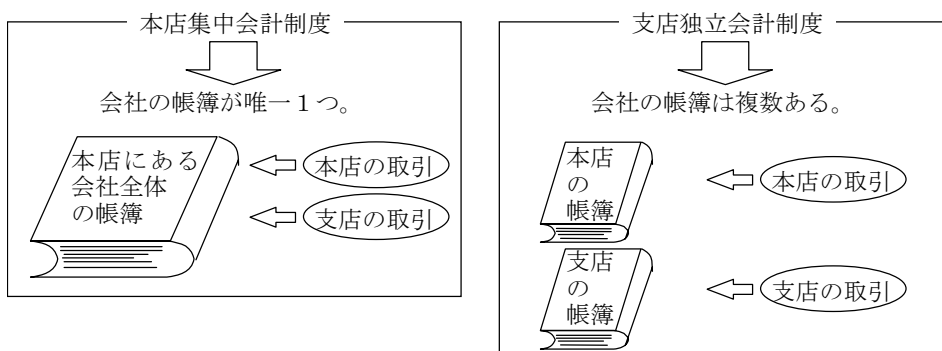
〈理解図〉



- ① **本店集中会計制度**… 支店のすべての取引を本店に報告し、本店の帳簿に支店の取引をも記録する「支店の取引」の記帳方法である。
- ② **支店独立会計制度**… 支店の期中取引を支店独自の帳簿に記録するとともに、支店独自で決算をも行う「支店の取引」の記帳方法である。

- ・ 「独立した会計単位」とは、一会計期間における経営活動の成果を貨幣額でもって集計する単位である。本店集中会計制度においては、会社全体が会計単位となり、支店独立会計制度においては、本店、支店それぞれが独立した会計単位となる。

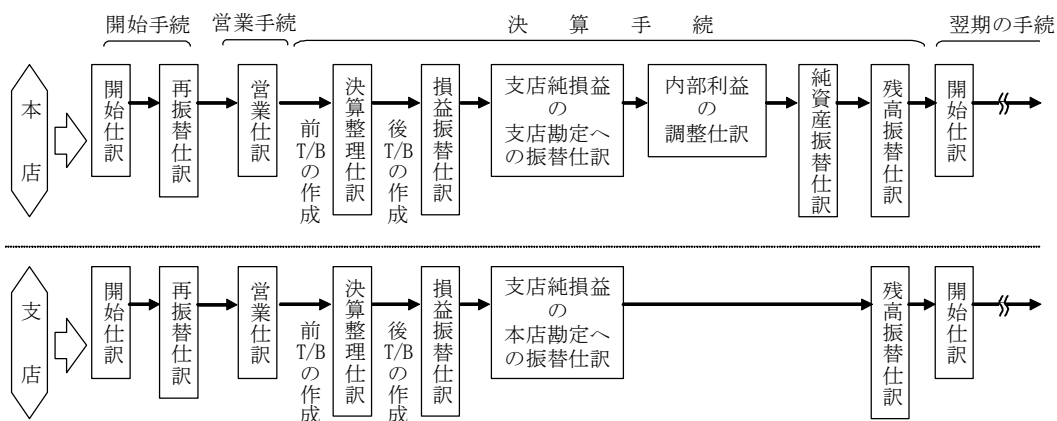
(理解図)



(コメント)

本店集中会計制度であれば、支店の取引はすべて本店の帳簿に記入されるため本支店会計の特別な会計手続は問題とならないが、支店独立会計制度では、支店の取引が支店の帳簿に記帳されるため、本支店間取引の手続、支店相互間取引の手続、本店と支店の業績を会社全体の業績にまとめる手続(本支店会計の特別な会計手続)が問題となる。以下、このような問題がある支店独立会計制度を前提とする本支店会計について取り扱う。

3. 簿記一巡の手続

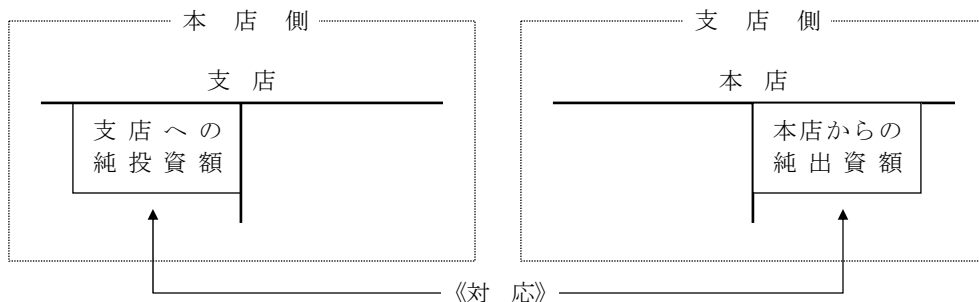


第2節 本支店間取引

1. 支店勘定と本店勘定の設定

本支店間取引を会社内部における貸借関係とみるため、本店では支店への投資額を示す「支店勘定」を総勘定元帳に設定し、支店では本店からの出資額を示す「本店勘定」を総勘定元帳に設定する。なお、この2つの勘定は貸借反対に記入され、その残高は貸借反対に生じかつ金額は一致することから本支店間取引の正確性の検証に役立ち、またその機能から相互対照勘定とか照合勘定と呼ばれている。

〈理解図〉



2. 本支店間取引の分類

〈一 覧 表〉

- ① 支店独立会計制度実施時における本店の財産の一部を本店の帳簿から分離し支店へ引継ぐ取引
- ② 金銭の送付取引
- ③ 商品の振替取引
- ④ 他店債権債務の決済取引
- ⑤ 他店費用の立替払取引
- ⑥ 他店収益の代理受取引
- ⑦ 他店得意先への直送取引
- ⑧ 他店仕入先への直接返品取引
- ⑨ 支店純損益の振替取引

① 支店独立会計制度実施時における本店の財産の一部を本店の帳簿から分離し支店へ引継ぐ取引

(本店側の仕訳)

(借) 諸 負 債 ××	(貸) 諸 資 産 ××
(注)	(注)
支 店 ××	

(支店側の仕訳)

(借) 諸 資 産 ××	(貸) 諸 負 債 ××
(注)	(注)
	本 店 ××

(注) 実際には、具体的な勘定科目を記帳することになる。

② 金銭の送付取引

i) 本店から支店へ送金するケース

(本店側の仕訳)

(借) 支 店 ××	(貸) 現 金 預 金 ××
------------	----------------

(支店側の仕訳)

(借) 現 金 預 金 ××	(貸) 本 店 ××
----------------	------------

ii) 支店から本店へ送金するケース

(本店側の仕訳)

(借) 現 金 預 金 ××	(貸) 支 店 ××
----------------	------------

(支店側の仕訳)

(借) 本 店 ××	(貸) 現 金 預 金 ××
------------	----------------

③ 商品の振替取引

i) 振替価格の決定方法

- ㉑ 原 価 法 … 仕入原価をもって振替価格とする方法である。
- ㉒ 計算価格法 … 原価に一定の利益を加算した価格（通常は市価よりも低い）をもって振替価格とする方法である。
- ㉓ 市場価格法 … 市場価格をもって振替価格とする方法である。

ii) 商品振替の記帳方法

(一 覧 表)
㉑ 商品の払出側は仕入勘定の貸方に、商品の受入側は仕入勘定の借方に記入する方法 ㉒ 外部との商品売買取引と明確に区別できる勘定を新たに設けて記帳する方法 ㉓ 外部との商品売買取引で使用する勘定を用いて記帳する方法

- ㉑ 商品の払出側は仕入勘定の貸方に、商品の受入側は仕入勘定の借方に記入する方法（原価法となじみ易い。）

イ) 本店から支店へ商品を振替えるケース

(本店側の仕訳)	(支店側の仕訳)
(借)支 店 ×× (貸)仕 入 ××	(借)仕 入 ×× (貸)本 店 ××

ロ) 支店から本店へ商品を振替えるケース

(本店側の仕訳)	(支店側の仕訳)
(借)仕 入 ×× (貸)支 店 ××	(借)本 店 ×× (貸)仕 入 ××

- ㉒ 外部との商品売買取引と明確に区別できる勘定を新たに設けて記帳する方法

イ) 本店から支店へ商品を振替えるケース

(本店側の仕訳)	(支店側の仕訳)
(借)支 店 ×× (貸)支店売上 ××	(借)本店仕入 ×× (貸)本 店 ××

ロ) 支店から本店へ商品を振替えるケース

(本店側の仕訳)	(支店側の仕訳)
(借)支店仕入 ×× (貸)支 店 ××	(借)本 店 ×× (貸)本店売上 ××

- ㉓ 外部との商品売買取引で使用する勘定を用いて記帳する方法

イ) 本店から支店へ商品を振替えるケース

(本店側の仕訳)	(支店側の仕訳)
(借)支 店 ×× (貸)売 上 ××	(借)仕 入 ×× (貸)本 店 ××

ロ) 支店から本店へ商品を振替えるケース

(本店側の仕訳)	(支店側の仕訳)
(借)仕 入 ×× (貸)支 店 ××	(借)本 店 ×× (貸)売 上 ××

④ 他店債権債務の決済取引

i) 本店が支店の売掛金を小切手で回収するケース

(本店側の仕訳)	(支店側の仕訳)
(借)現金預金 ×× (貸)支店 ××	(借)本店 ×× (貸)売掛金 ××

ii) 支店が本店の売掛金を小切手で回収するケース

(本店側の仕訳)	(支店側の仕訳)
(借)支店 ×× (貸)売掛金 ××	(借)現金 ×× (貸)本店 ××

iii) 本店が支店の買掛金を小切手で支払うケース

(本店側の仕訳)	(支店側の仕訳)
(借)支店 ×× (貸)現金預金 ××	(借)買掛金 ×× (貸)本店 ××

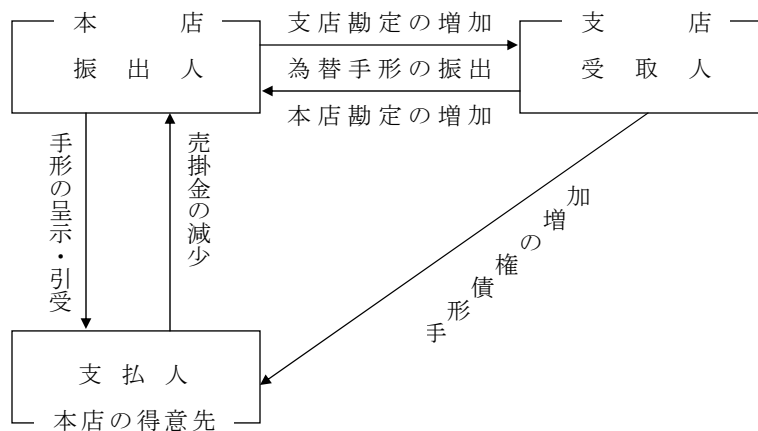
iv) 支店が本店の買掛金を小切手で支払うケース

(本店側の仕訳)	(支店側の仕訳)
(借)買掛金 ×× (貸)支店 ××	(借)本店 ×× (貸)現金預金 ××

v) 本店が支店指図・本店得意先宛の為替手形（自己指図為替手形）を振出して、支店が本店の売掛金を手形で回収するケース

(本店側の仕訳)	(支店側の仕訳)
(借)支店 ×× (貸)売掛金 ××	(借)受取手形 ×× (貸)本店 ××

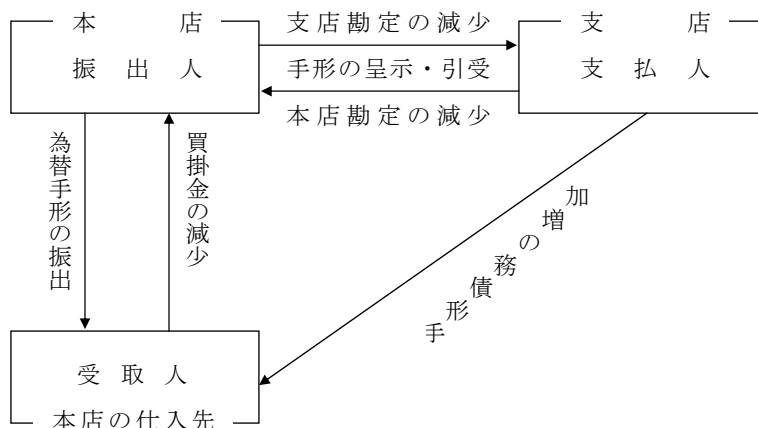
〈理解図〉



vi) 本店が本店仕入先指図・支店宛の為替手形（自己宛為替手形）を振出して、支店が本店の買掛金を手形で支払うケース

(本店側の仕訳)	(支店側の仕訳)
(借)買掛金 ×× (貸)支店 ××	(借)本店 ×× (貸)支払手形 ××

(理解図)



⑤ 他店費用の立替払取引

i) 本店が支店の旅費を現金で立替払するケース

(本店側の仕訳)

(借)支店 ××	(貸)現金預金 ××
----------	------------

(支店側の仕訳)

(借)旅費 ××	(貸)本店 ××
----------	----------

ii) 支店が本店の広告宣伝費を現金で立替払するケース

(本店側の仕訳)

(借)広告宣伝費 ××	(貸)支店 ××
-------------	----------

(支店側の仕訳)

(借)本店 ××	(貸)現金預金 ××
----------	------------

⑥ 他店収益の代理受取引

i) 本店が支店の手数料収入を現金で受取るケース

(本店側の仕訳)

(借)現金預金 ××	(貸)支店 ××
------------	----------

(支店側の仕訳)

(借)本店 ××	(貸)受取手数料 ××
----------	-------------

ii) 支店が本店の家賃収入を現金で受取るケース

(本店側の仕訳)

(借)支店 ××	(貸)受取家賃 ××
----------	------------

(支店側の仕訳)

(借)現金預金 ××	(貸)本店 ××
------------	----------

⑦ 他店得意先への直送取引

i) 本店が支店の得意先へ商品を直送するケース

(本店側の仕訳)

(借)支店 ××	(貸)支店売上(注) ××
----------	---------------

(支店側の仕訳)

(借)本店仕入(注) ××	(貸)本店 ××
(借)売掛金 ××	(貸)売上 ××

ii) 支店が本店の得意先へ商品を直送するケース

(本店側の仕訳)

(借)支店仕入(注) ××	(貸)支店 ××
(借)売掛金 ××	(貸)売上 ××

(支店側の仕訳)

(借)本店 ××	(貸)本店売上(注) ××
----------	---------------

(注) 商品受払の記帳方法は前記③ ii) ⑥の方法によっている。

⑧ 他店仕入先への直接返品取引

i) 本店が支店の仕入先へ商品を直接返品するケース

(本店側の仕訳)

(借) 支店 ××	(貸) 支店仕入(注) ××
-----------	----------------

(支店側の仕訳)

(借) 本店売上(注) ××	(貸) 本店 ××
(借) 買掛金 ××	(貸) 仕入 ××

ii) 支店が本店の仕入先へ商品を直接返品するケース

(本店側の仕訳)

(借) 支店売上(注) ××	(貸) 支店 ××
(借) 買掛金 ××	(貸) 仕入 ××

(支店側の仕訳)

(借) 本店 ××	(貸) 本店仕入(注) ××
-----------	----------------

(注) 商品受払の記帳方法は前記③ ii) ⑥の方法によっている。

⑨ 支店純損益の振替取引

(本店側の仕訳)

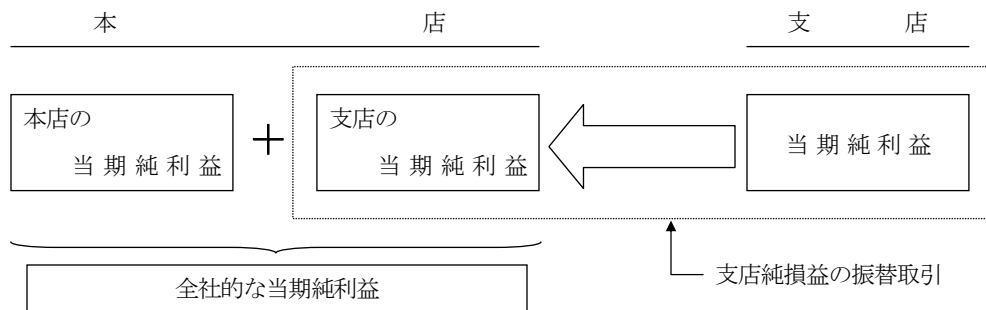
(借) 支店 ××	(貸) 損益 ××
-----------	-----------

(支店側の仕訳)

(借) 損益 ××	(貸) 本店 ××
-----------	-----------

i) 意義… 支店純損益の振替取引とは、本店において全社的な当期純利益を計算するために、支店において確定した支店の当期純利益を本店へ集計する決算取引である。

(理解図)



ii) 支店純損益の振替方法

(一 覧 表)

- | | |
|-----------------------------------|--|
| a) 本店の損益勘定へ振替える方法 | イ) 本店の損益勘定へ直接振替える方法 (直接振替法) |
| | ロ) 本店に支店損益勘定を設定し、そこへ一旦各支店の純損益を集計してから本店の損益勘定へ振替える方法 (間接振替法) |
| b) 本店に損益勘定の他に総合損益勘定を設定し、そこへ振替える方法 | |

①ーイ) 本店の損益勘定へ直接振替える方法

(本店側の仕訳)

(支店側の仕訳)

(借) 支 店 ×× (貸) 損 益 ××

(借) 損 益 ×× (貸) 本 店 ××

①ーロ) 本店に支店損益勘定を設定し、そこへ一旦各支店の純損益を集計してから本店の損益勘定へ振替える方法

この方法は、支店が多数あるときに用いられるのが一般的であるため、設例もそれに合わせて行くと以下の通りである。

(本店側の仕訳)	(各支店側の仕訳)
(借) A 支 店 ×× (貸) 支店損益 ××	(借) 損 益 ×× (貸) 本 店 ×× ← A 支店
(借) B 支 店 ×× (貸) 支店損益 ××	(借) 損 益 ×× (貸) 本 店 ×× ← B 支店
(借) C 支 店 ×× (貸) 支店損益 ××	(借) 損 益 ×× (貸) 本 店 ×× ← C 支店
(借) 支店損益 ×× (貸) 損 益 ××	—

②) 本店に損益勘定の他に総合損益勘定を設定し、そこへ振替える方法

(本店側の仕訳)

(支店側の仕訳)

(借) 支 店 ×× (貸) 総合損益 ××

(借) 損 益 ×× (貸) 本 店 ××

(コメント)

- ・ 上記の仕訳は全て支店において当期純利益が計上されていることを前提としている。もし、支店において当期純損失が計上されているならば、上記の仕訳の反対仕訳となる。
- ・ なお、勘定の流れについては「第5節4支店純損益の振替仕訳」P29を参照。

point up lesson 1

解答用紙はP. 172

次の資料にもとづいて本支店間取引の仕訳をしなさい。

- ① 支店独立会計制度を採用することになり、本店は下記の勘定を本店の帳簿から分離し支店として独立させた。
- 現金預金 110, 売掛金 120, 繰越商品 130, 備 品 140, 建 物 150, 買掛金 160,
貸倒引当金 10, 減価償却累計額 100
- ② 金銭の送付取引
- i) 本店は支店へ現金 20 を送付した。
ii) 支店は本店へ現金 25 を送付した。
- ③ 商品の振替取引
- i) 外部仕入原価をもって振替価格とし、商品振替取引を仕入勘定のみで処理する方法の場合
- ㉔ 本店は支店へ商品 30 を振替えた。
㉕ 支店は本店へ商品 35 を振替えた。
- ii) 外部仕入原価に一定の利益（本店から支店への場合は外部仕入原価の 1 割、支店から本店への場合は外部仕入原価の 2 割）を加算した価格をもって振替価格とし、外部との商品売買取引と明確に区別できる勘定を新たに設けて処理する方法の場合
- ㉔ 本店は支店へ商品 30（外部仕入原価）を振替えた。
㉕ 支店は本店へ商品 30（外部仕入原価）を振替えた。
- ④ 他店債権債務の決済取引
- i) 売掛金の回収取引
- ㉔ 本店が支店の売掛金 40 を小切手で回収した。
㉕ 本店が支店指図・本店得意先宛の為替手形を振出して、支店で本店の売掛金 41 を回収した。
- ii) 買掛金の決済取引
- ㉔ 本店が支店の買掛金 42 を小切手で支払った。
㉕ 本店が本店仕入先指図・支店宛の為替手形を振出して、支店で本店の買掛金 43 を支払った。
- ⑤ 他店費用の立替払取引
- i) 本店が支店の旅費 50 を現金で立替払した。
ii) 支店が本店の広告宣伝費 55 を現金で立替払した。
- ⑥ 他店収益の代理受取取引
- i) 本店が支店の手数料収入 60 を小切手で受取った。
ii) 支店が本店の家賃収入 65 を現金で受取った。

< 解 答 >

		本 店 の 仕 訳	支 店 の 仕 訳
①		(借) 買 掛 金 160 (貸) 現 金 預 金 110 貸倒引当金 10 売 掛 金 120 減価償却累計額 100 繰 越 商 品 130 支 店 380 備 品 140 建 物 150	(借) 現 金 預 金 110 (貸) 買 掛 金 160 売 掛 金 120 貸倒引当金 10 繰 越 商 品 130 減価償却累計額 100 備 品 140 本 店 380 建 物 150
②	i)	(借) 支 店 20 (貸) 現 金 預 金 20	(借) 現 金 預 金 20 (貸) 本 店 20
	ii)	(借) 現 金 預 金 25 (貸) 支 店 25	(借) 本 店 25 (貸) 現 金 預 金 25
③	i)	㉑ (借) 支 店 30 (貸) 仕 入 30	(借) 仕 入 30 (貸) 本 店 30
		㉒ (借) 仕 入 35 (貸) 支 店 35	(借) 本 店 35 (貸) 仕 入 35
	ii)	㉓ (借) 支 店 33 (貸) 支店売上 33	(借) 本店仕入 33 (貸) 本 店 33
		㉔ (借) 支店仕入 36 (貸) 支 店 36	(借) 本 店 36 (貸) 本店売上 36
④	i)	㉕ (借) 現 金 預 金 40 (貸) 支 店 40	(借) 本 店 40 (貸) 売 掛 金 40
		㉖ (借) 支 店 41 (貸) 売 掛 金 41	(借) 受 取 手 形 41 (貸) 本 店 41
	ii)	㉗ (借) 支 店 42 (貸) 現 金 預 金 42	(借) 買 掛 金 42 (貸) 本 店 42
		㉘ (借) 買 掛 金 43 (貸) 支 店 43	(借) 本 店 43 (貸) 支 払 手 形 43
⑤	i)	(借) 支 店 50 (貸) 現 金 預 金 50	(借) 旅 費 交 通 費 50 (貸) 本 店 50
	ii)	(借) 広 告 宣 伝 費 55 (貸) 支 店 55	(借) 本 店 55 (貸) 現 金 預 金 55
⑥	i)	(借) 現 金 預 金 60 (貸) 支 店 60	(借) 本 店 60 (貸) 受 取 手 数 料 60
	ii)	(借) 支 店 65 (貸) 受 取 家 賃 65	(借) 現 金 預 金 65 (貸) 本 店 65

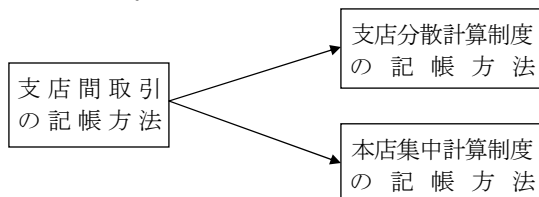
- ⑦ 他店得意先への商品の直送取引（本支店共、外部仕入原価の5割増で外部に販売している。）
- i) ③-i) と同じ処理方法
 - ㉑ 本店が支店の得意先へ商品 72（外部仕入原価）を直送した。
 - ㉒ 支店が本店の得意先へ商品 74（外部仕入原価）を直送した。
 - ii) ③-ii) と同じ処理方法
 - ㉓ 本店が支店の得意先へ商品 70（外部仕入原価）を直送した。
 - ㉔ 支店が本店の得意先へ商品 70（外部仕入原価）を直送した。
- ⑧ 他店仕入先への商品の直接返品取引
- i) ③-i) と同じ処理方法
 - ㉕ 本店が支店の仕入先へ商品 82（振替価格）を直接返品した。
 - ㉖ 支店が本店の仕入先へ商品 84（振替価格）を直接返品した。
 - ii) ③-ii) と同じ処理方法
 - ㉗ 本店が支店の仕入先へ商品 96（振替価格）を直接返品した。
 - ㉘ 支店が本店の仕入先へ商品 88（振替価格）を直接返品した。
- ⑨ 支店純利益 90（内訳：A支店 40, B支店 30, C支店 20）を本店へ振替えた。
- i) 本店の損益勘定へ直接振替える方法の場合
 - ii) 本店に支店損益勘定を設定し、そこへ一旦各支店の純損益を集計してから本店の損益勘定へ間接的に振替える方法の場合
 - iii) 本店に損益勘定の他に総合損益勘定を設定し、そこへ振替える方法の場合

		本店の仕訳	支店の仕訳
⑦	i)	① (借) 支店 72 (貸) 仕入 72 -	(借) 仕入 72 (貸) 本店 72 (借) 売掛金 108 (貸) 売上 108
		② (借) 仕入 74 (貸) 支店 74 (借) 売掛金 111 (貸) 売上 111	(借) 本店 74 (貸) 仕入 74 -
	ii)	① (借) 支店 77 (貸) 支店売上 77 -	(借) 本店仕入 77 (貸) 本店 77 (借) 売掛金 105 (貸) 売上 105
		② (借) 支店仕入 84 (貸) 支店 84 (借) 売掛金 105 (貸) 売上 105	(借) 本店 84 (貸) 本店売上 84 -
⑧	i)	① (借) 支店 82 (貸) 仕入 82	(借) 買掛金 82 (貸) 本店 82
		② (借) 買掛金 84 (貸) 支店 84	(借) 本店 84 (貸) 仕入 84
	ii)	① (借) 支店 96 (貸) 支店仕入 96 -	(借) 本店売上 96 (貸) 本店 96 (借) 買掛金 80 (貸) 仕入 80
		② (借) 支店売上 88 (貸) 支店 88 (借) 買掛金 80 (貸) 仕入 80	(借) 本店 88 (貸) 本店仕入 88 -
⑨	i)	(借) A 支店 40 (貸) 損益 40	(借) 損益 40 (貸) 本店 40
		(借) B 支店 30 (貸) 損益 30	(借) 損益 30 (貸) 本店 30
		(借) C 支店 20 (貸) 損益 20	(借) 損益 20 (貸) 本店 20
	ii)	(借) A 支店 40 (貸) 支店損益 40	(借) 損益 40 (貸) 本店 40
		(借) B 支店 30 (貸) 支店損益 30	(借) 損益 30 (貸) 本店 30
		(借) C 支店 20 (貸) 支店損益 20	(借) 損益 20 (貸) 本店 20
(借) 支店損益 90 (貸) 損益 90		-	
iii)	(借) A 支店 40 (貸) 総合損益 40	(借) 損益 40 (貸) 本店 40	
	(借) B 支店 30 (貸) 総合損益 30	(借) 損益 30 (貸) 本店 30	
	(借) C 支店 20 (貸) 総合損益 20	(借) 損益 20 (貸) 本店 20	

第3節 支店間取引

1. 記帳方法

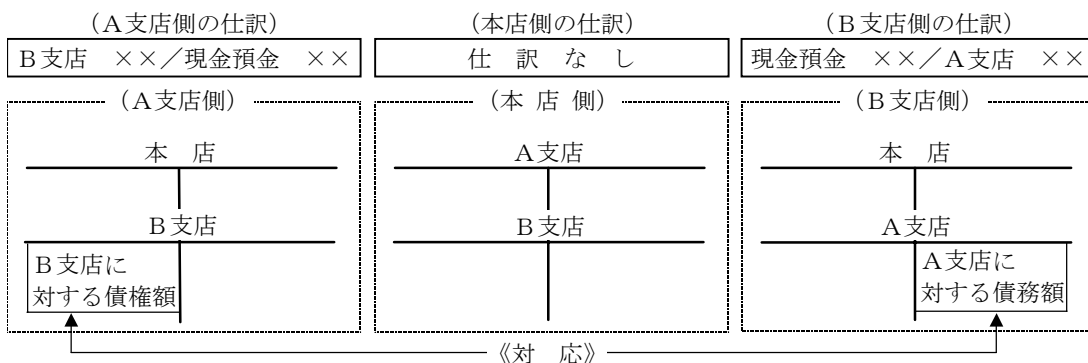
複数の支店を有するとき、支店相互間取引を記帳する方法として支店分散計算制度と本店集中計算制度の2つがある。



2. 支店分散計算制度

支店間取引を各支店において取引の相手方の支店名を付した支店勘定で記帳する方法である。

① A支店がB支店へ送金するケース



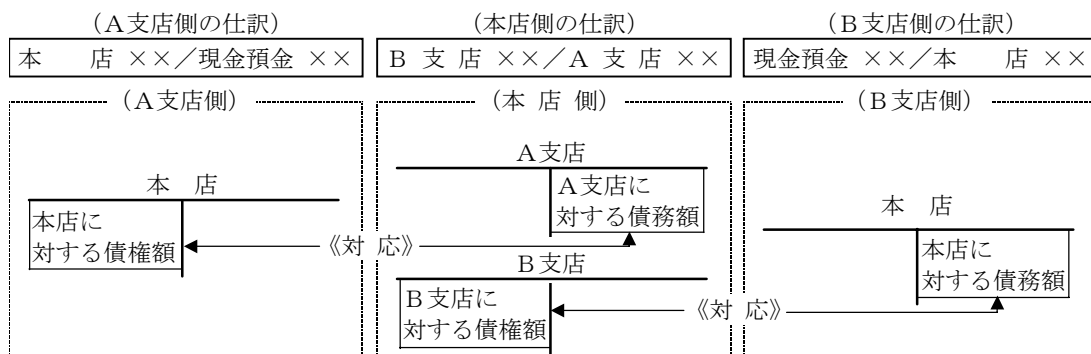
② B支店がA支店へ送金するケース

(A支店側の仕訳)	(本店側の仕訳)	(B支店側の仕訳)
現金預金 ×× / B支店 ××	仕訳なし	A支店 ×× / 現金預金 ××

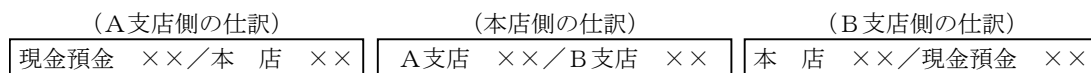
3. 本店集中計算制度

支店間取引を各々の支店が本店と取引したものとみなして記帳する方法である。したがって、各支店において支店勘定は不要であり、本店勘定のみが設けられる。なお、この場合の本店の記帳制度として、複数報告制と単数報告制とがある。

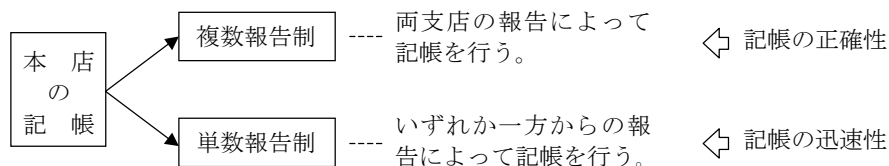
① A支店がB支店へ送金するケース



② B支店がA支店へ送金するケース



③ 本店の記帳制度



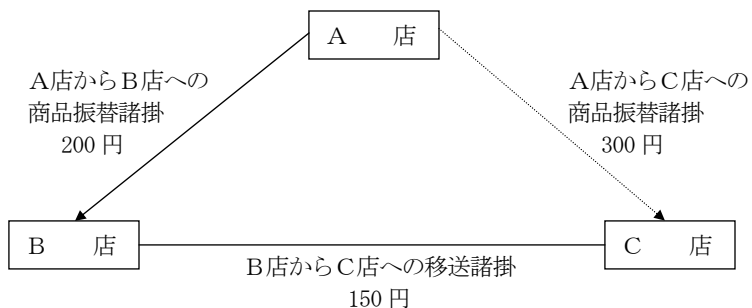
4. 両計算制度の長所・短所

	支店分散計算制度	本店集中計算制度
長所	本店の記帳事務が簡素化できる。	本店による支店相互間の取引を完全に把握できる。
短所	本店による支店相互間の取引の把握が困難である。	本店における記帳事務が煩雑になる。

— 研究 — 各店間の商品移送取引

- ・ 意義… 商品移送取引とは、A店がB店に対し、B店にある商品をC店に移送させる取引である。移送取引に伴う超過仕入諸掛は、『(本)支店間振替損』として「販売費及び一般管理費」に記載する。

〔理解図〕



振替損 = (200 + 150) - 300 = 50 円

・ 会計処理

A 店		B 店		C 店	
A店からB店への商品 (振替価格1,000円) 振替時					
(借) B 店 1,200	(貸) B店売上 1,000	(借) A店仕入 1,200	(貸) A 店 1,200	—	
現金預金 200					
B店からC店への商品移送時					
(借) B店売上 1,000	(貸) B 店 1,200	(借) A 店 1,200	(貸) A店仕入 1,200		
C 店 1,300	C店売上 1,000	(借) A 店 150	(貸) 現金預金 150	(借) A店仕入 1,300 (貸) A 店 1,300	
B・C間振替損 50	B 店 150				

point up lesson 2

解答用紙はP. 174

次の資料にもとづいて支店間取引の仕訳をしなさい (支店分散計算制度, 本店集中計算制度のそれぞれによった場合の仕訳を示しなさい)。

- ① 甲支店は乙支店に現金 10 を送付した。
- ② 乙支店は甲支店に商品 20 (外部仕入原価) を振替えた。ただし, 支店間の商品振替取引については外部仕入原価に一定の利益 (原価の 1 割) を加算した価格をもって振替価格とし, 外部との商品売買取引と明確に区別できる勘定を新たに設けて処理する方法によっている。
- ③ 他店債権債務の決済取引
 - i) 甲支店は乙支店の売掛金 30 を他人振出の手形で回収した。
 - ii) 甲支店は乙支店の買掛金 35 を現金で支払った。
- ④ 乙支店は甲支店の修繕費 40 を小切手で立替払した。
- ⑤ 乙支店は甲支店の貸付金利息収入 50 を現金で受取った。
- ⑥ 甲支店は乙支店の得意先へ商品 60 (外部仕入原価) を直送した (両支店共, 外部仕入原価の 5 割増で外部に販売している)。ただし, ②と同じ処理法によっている。
- ⑦ 甲支店は乙支店の仕入先へ商品 77 (振替価格) を直接返品した。ただし, ②と同じ処理法によっている。

〈解 答〉

・支店分散計算制度によった場合

	甲 支 店 の 仕 訳		乙 支 店 の 仕 訳		
①	(借) 乙 支 店 10	(貸) 現金預金 10	(借) 現金預金 10	(貸) 甲 支 店 10	
②	(借) 乙支店仕入 22	(貸) 乙 支 店 22	(借) 甲 支 店 22	(貸) 甲支店売上 22	
③	i)	(借) 受取手形 30	(貸) 乙 支 店 30	(借) 甲 支 店 30	(貸) 売 掛 金 30
	ii)	(借) 乙 支 店 35	(貸) 現金預金 35	(借) 買 掛 金 35	(貸) 甲 支 店 35
④	(借) 修 繕 費 40	(貸) 乙 支 店 40	(借) 甲 支 店 40	(貸) 現金預金 40	
⑤	(借) 乙 支 店 50	(貸) 受取利息 50	(借) 現金預金 50	(貸) 甲 支 店 50	
⑥	(借) 乙 支 店 66	(貸) 乙支店売上 66	(借) 甲支店仕入 66	(貸) 甲 支 店 66	
	—	—	(借) 売 掛 金 90	(貸) 売 上 90	
⑦	(借) 乙 支 店 77	(貸) 乙支店仕入 77	(借) 甲支店売上 77	(貸) 甲 支 店 77	
	—	—	(借) 買 掛 金 70	(貸) 仕 入 70	

〈各支店における支店勘定〉(ただし、前記以外に当期中の支店間取引はなかったものとする。)

乙 支 店			甲 支 店		
①	10	②	22	②	22
③-ii)	35	③-i)	30	③-ii)	35
⑤	50	④	40	④	40
⑥	66	} 期末残高 146		} 期末残高 146	
⑦	77	} 期末残高 146		} 期末残高 146	

・本店集中計算制度によった場合

	甲 支 店 の 仕 訳		本 店 の 仕 訳		乙 支 店 の 仕 訳		
①	(借)本 店 10	(貸)現金預金 10	(借)乙 支 店 10	(貸)甲 支 店 10	(借)現金預金 10	(貸)本 店 10	
②	—		(借)乙支店仕入 22	(貸)乙 支 店 22	(借)本 店 22	(貸)本店売上 22	
	(借)本店仕入 22	(貸)本 店 22	(借)甲 支 店 22	(貸)甲支店売上 22	—		
③	i)	(借)受取手形 30	(貸)本 店 30	(借)甲 支 店 30	(貸)乙 支 店 30	(借)本 店 30	(貸)売 掛 金 30
	ii)	(借)本 店 35	(貸)現金預金 35	(借)乙 支 店 35	(貸)甲 支 店 35	(借)買 掛 金 35	(貸)本 店 35
④	(借)修 繕 費 40	(貸)本 店 40	(借)甲 支 店 40	(貸)乙 支 店 40	(借)本 店 40	(貸)現金預金 40	
⑤	(借)本 店 50	(貸)受取利息 50	(借)乙 支 店 50	(貸)甲 支 店 50	(借)現金預金 50	(貸)本 店 50	
⑥	—		(借)乙 支 店 66	(貸)乙支店売上 66	(借)本店仕入 66	(貸)本 店 66	
	(借)本 店 66	(貸)本店売上 66	(借)甲支店仕入 66	(貸)甲 支 店 66	(借)売 掛 金 90	(貸)売 上 90	
⑦	—		(借)乙 支 店 77	(貸)乙支店仕入 77	(借)本店売上 77	(貸)本 店 77	
	(借)本 店 77	(貸)本店仕入 77	(借)甲支店売上 77	(貸)甲 支 店 77	(借)買 掛 金 70	(貸)仕 入 70	

〈各本支店における本支店勘定〉（ただし、当期において本支店間では、前記の支店間取引しかなかったものとする。）

本 店		甲 支 店					
①	10	②	22	②	22	①	10
③-ii)	35	③-i)	30	③-i)	30	③-ii)	35
⑤	50	④	40	④	40	⑤	50
⑥	66	} 期末残高 146		⑥	66	} 期末残高 146	
⑦	77			⑦	77		
		乙 支 店		本 店			
		①	10	②	22	②	22
		③-ii)	35	③-i)	30	③-i)	30
		⑤	50	④	40	④	40
		⑥	66	} 期末残高 146		⑥	66
		⑦	77			⑦	77

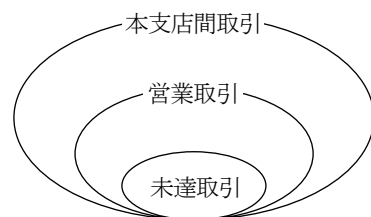
第4節 未達取引

1. 意義

未達取引とは、決算直前の本支店間（又は支店相互間）取引のうち、決算日までに相手方に現物や通知が到達していないため未だ相手方で記帳の行われていない営業取引である。

2. 分類

- ① 送金未達取引
- ② 商品未達取引
- ③ 他店債権・債務の決済取引の通知未達取引
- ④ 他店費用の立替払取引の通知未達取引
- ⑤ 他店収益の代理受取引の通知未達取引
- ⑥ 他店得意先への直送取引の通知未達取引
- ⑦ 他店仕入先への直接返品取引の通知未達取引



3. 記帳方法

- ㊤ 決算日記帳法……… 未達取引を決算整理取引とみなして、決算日日付で各店の帳簿に記帳する方法である。なお、この場合に未達であることを明確にするために『未達勘定』を用いて記帳することもある。
- ㊦ 実際到着日記帳法… 未達取引を実際の到着日（翌期）に各店の帳簿に記帳する方法である。なお、この方法によると、未達取引は当期の帳簿に記帳されず、合併精算表等

の合併手続の段階で考慮される。

〈理解図〉

記帳時期	記帳方法		記帳上の留意点
当期 の 決算整理手続	①決算日記帳法	i) 各店で既達取引として通常の勘定を用いて記帳する方法	・実際に到着日に記帳してはいけない。 (∴) 当期と翌期に2度仕訳を行うことになるから。
		ii) 各店で『未達勘定』を用いて記帳する方法	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">『未達勘定』の翌期の処理方法</div> <div style="margin-right: 10px;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> 翌期の開始手続で(再振替仕訳)を行って処理する方法 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 実際に到着日に通常の勘定へ振替える方法 </div> </div>
翌期 の 営業手続	②実際に到着日記帳法		・当期の本店及び支店の帳簿には全く記帳されない。(このことが合併手続において未達取引の処理を必要とする。)

4. 具体的会計処理

(下記の取引番号及びタイトル記号は、前記「2. 分類」の番号及び〈理解図〉の記号と対応している。)

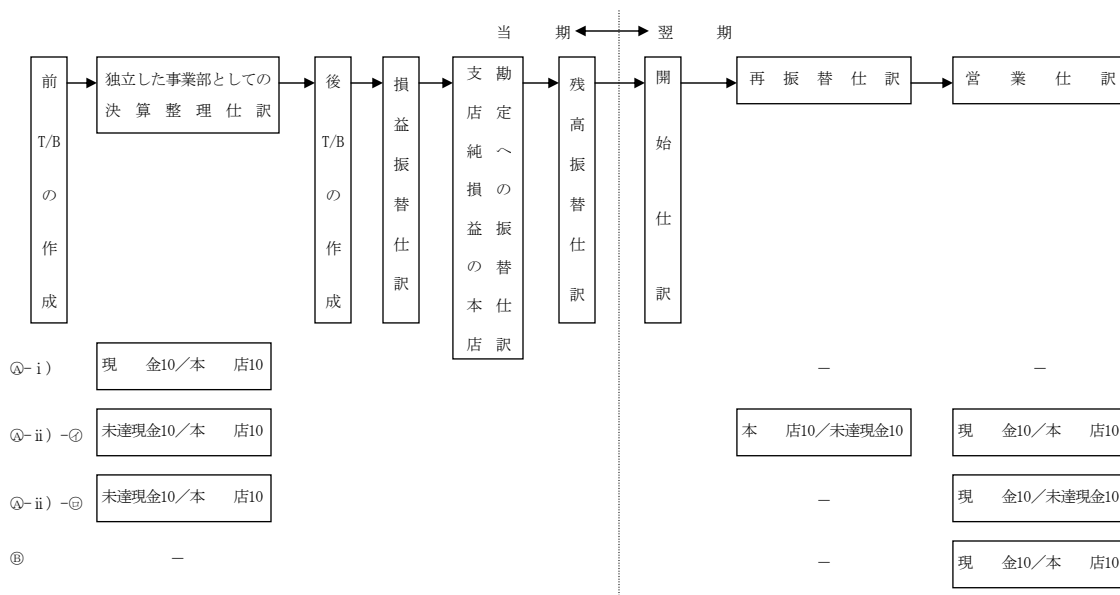
① 本店は支店へ現金10を送付したが、決算日現在これが支店に未達であり、翌期に到着した。

		決算日	翌期首	到着日	
①	i)	現金10/本店10	仕訳なし	仕訳なし	
	ii)	①	未達現金10/本店10	本店10/未達現金10	現金10/本店10
		②	未達現金10/本店10	仕訳なし	現金10/未達現金10
②		仕訳なし	仕訳なし	現金10/本店10	

(留意点)

『未達現金』は『現金』の付加的評価勘定であり、貸借対照表上、『現金』に含めて記載する。

〈理解図〉



〈未達現金勘定の動き〉

・ ①-ii) - ①の場合

・ ①-ii) - ②の場合

未 達 現 金	
決算整理仕訳⇒	10 10 ⇐残高振替仕訳
開始仕訳⇒	10 10 ⇐再振替仕訳

未 達 現 金	
決算整理仕訳⇒	10 10 ⇐残高振替仕訳
開始仕訳⇒	10 10 ⇐営業仕訳

翌期首における再振替仕訳の結果、未達現金勘定残高はゼロになる。

翌期における営業仕訳の結果、未達現金勘定残高はゼロになる。

② 本店は支店へ商品 20（振替価格）を振替えたが、決算日現在これが支店に未達であり、翌期に到着した。

		決 算 日	翌 期 首	到 着 日	
①	i)	本店仕入 20 / 本店 20 繰越商品 20 / 本店仕入 20	仕 訳 な し	仕 訳 な し	
	ii)	①	未達商品 20 / 本店 20	本店 20 / 未達商品 20	本店仕入 20 / 本店 20
		②	未達商品 20 / 本店 20	仕 訳 な し	本店仕入 20 / 未達商品 20
②		仕 訳 な し	仕 訳 な し	本店仕入 20 / 本店 20	

(留意点)

『未達商品』は『繰越商品』の付加的評価勘定であり、貸借対照表上、『(繰越)商品』に含めて記載する。

③ 本店は支店の売掛金 30 を小切手で回収したが、決算日現在この通知が支店に未達であり、翌期に到達した。

		決 算 日	翌 期 首	到 着 日	
④	i)	本 店 30 / 売 掛 金 30	仕 訳 な し	仕 訳 な し	
	ii)	㊦	本 店 30 / 未 達 売 掛 金 30	未 達 売 掛 金 30 / 本 店 30	本 店 30 / 売 掛 金 30
		㊧	本 店 30 / 未 達 売 掛 金 30	仕 訳 な し	未 達 売 掛 金 30 / 売 掛 金 30
⑤		仕 訳 な し	仕 訳 な し	本 店 30 / 売 掛 金 30	

〈留意点〉

この場合、『未達売掛金』は『売掛金』の控除的評価勘定であり、貸借対照表上、『売掛金』から控除して記載する。

〈未達売掛金勘定の動き〉

・ ④ - ii) - ㊦の場合

・ ④ - ii) - ㊧の場合

		未 達 売 掛 金	
残高振替仕訳⇒	30	30	⇐ 決算整理仕訳
再振替仕訳⇒	30	30	⇐ 開始仕訳

		未 達 売 掛 金	
残高振替仕訳⇒	30	30	⇐ 決算整理仕訳
営業仕訳⇒	30	30	⇐ 開始仕訳

翌期首における再振替仕訳の結果、未達売掛金勘定残高はゼロになる。

翌期における営業仕訳の結果、未達売掛金勘定残高はゼロになる。

④ 本店は支店の修繕費 40 を現金で支払ったが、決算日現在この通知が支店に未達であり、翌期に到達した。

		決 算 日	翌 期 首	到 着 日	
④	i)	修 繕 費 40 / 本 店 40	仕 訳 な し	仕 訳 な し	
	ii)	㊦	未 達 修 繕 費 40 / 本 店 40	仕 訳 な し (注 1)	仕 訳 な し (注 2)
		㊧	未 達 修 繕 費 40 / 本 店 40	仕 訳 な し	仕 訳 な し (注 2)
⑤		仕 訳 な し (注 3)	仕 訳 な し	修 繕 費 40 / 本 店 40 未 払 金 40 / 修 繕 費 40	

(注 1) 損益項目に関する未達勘定（この場合は『未達修繕費』）は、損益勘定に振替えられて翌期に繰越されないため再振替仕訳は不要である。

(注 2) また、決算整理と翌期の実際到着日の2度にわたって記帳したのでは二重仕訳となるので、実際到着日の記帳も不要である。

(注 3) 決算整理仕訳として (借) 修繕費 40 (貸) 未払金 40 という仕訳は行われる。

〈留意点〉

『未達修繕費』は『修繕費』の追加的費用勘定であり、損益計算書上、『修繕費』に含めて記載する。